

---

# ギャグありシリアスありバトルありのお気に入りキャラで逃走中

ソニック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ギャグありシリアスありバトルありのお気に入りキャラで逃走中

### 【Nコード】

N9383Z

### 【作者名】

ソニック

### 【あらすじ】

舞台は未来大都市レールシティ

そこで様々な逃走者がバトルありの逃走劇を行う  
果たして誰が逃げ切れるか

## 逃走者紹介（前書き）

逃走者の紹介

## 逃走者紹介

スマブラX  
マリオ  
ルイージ  
ピーチ  
クッパ  
ワリオ  
マルス  
アイク  
ネス  
リユカ  
ゲーム&ウオッチ  
ロボット  
カービィ  
メタナイト  
デデデ  
ピカチュウ  
ルカリオ  
ドンキーコング  
デイデューコング  
フォックス  
ファルコ  
ウルフ  
サマス・アラン  
リンク  
ゼルダ  
トウーンリンク  
スネーク

ソニック  
ソニック・ザ・ヘッジホッグ  
シャドウ・ザ・ヘッジホッグ  
シルバー・ザ・ヘッジホッグ  
マイルス・テイルス・パウアー  
ナックルズ・ザ・エキドゥナ  
エミー・ローズ  
ルージュ・ザ・バット  
ベクター・ザ・クロコダイル  
エスピオ・ザ・カメレオン  
チャーミー・ビー  
ブレイズ・ザ・キャット  
ロックマンX  
エックス(コマンドミッション)  
ゼロ  
アクセル  
スパイダー  
マッシモ  
マリノ  
シナモン  
ドラゴンボール  
孫悟空  
ベジータ  
トランクス(未来)  
孫悟飯  
ピッコロ  
バーダック

ブローリー  
パラガス

ぷよぷよ  
アルル・ナジャ  
アミティ

あんどろりんご  
ラフィーナ  
シゲ

レムレス  
クルーク  
アコール先生  
フェーリ

シエゾウイグイイ  
ドラコ・ケンタウロス  
サタン  
ルルー  
ウィッチ  
リデル

ロックマンゼロ  
ゼロ（ロックマンXのゼロと同一人物のためロックマンゼロと書く  
が他の皆はゼロと呼ぶ）

仮面ライダー龍騎  
城戸真司  
秋山蓮

仮面ライダーカブト  
天道総司

加賀美新

仮面ライダー電王

モモタロス

ウラタロス

キンタロス

リュウタロス

デネブ

ジーク

仮面ライダーディケイド

門矢士

海東大樹

仮面ライダーW

左翔太郎

フィリップ

照井竜

仮面ライダー000

火野映司

アーク

伊達明

後藤慎太郎

ボーボボ

ボボボーボ・ボーボボ

首領パッチ

ところ天の助

魚雷ガール

でんじやらすじーさん

じーさん

孫

校長

ゲベ

マッスル竹田

ステップ長谷川

この96名の逃走者で逃げ切れる者はいるか

## 逃走者紹介（後書き）

好きなアニメゲームキャラで逃走中よりも人数多いな、まいつか感想をお願いします

# オープニングゲーム（前書き）

本編スタート

## オープニングゲーム

逃走劇の舞台は未来大都市レールシティ

広さはデイズニーランドの2倍

レールシティで250分間の逃走劇が始まる

そして現在逃走者はハンターが封印している97の鎖が入ったハンターボックスの目の前にいる

その鎖は97本の内1本がハンターを放出するハズレの鎖で96名の逃走者は1人一本引かなければならない

なお鎖を引く順番はくじ引きで決める

全「せ」の「

モモタロス「俺は50番か」

シャドウ「27番・・・」

アクセセル「12番か・・・」

そして最初に鎖を引くのは

翔太郎「いきなり俺かあ」

ハーフォイルド探偵左翔太郎だ・・・

翔太郎「誰がハーフォイルドだ!!」

フィリップ「何1人で叫んでんだい翔太郎、早く鎖を引きたまえ」

翔太郎「あ、ああ分かったじゃあ黒で行くか」

ウィッチ「どうして?」

翔太郎「俺が使ってるジョーカーのガイアメモリと同じ色だからだ、じゃあ引くぜ!」

果たしてクリアかそれとも放出か

ジャラ

翔太郎「よっしやあー!!」

クリアだ

なおクリアした逃走者はボックスから離れた場所でスタートできる

2番目は

ルージュ「さて次は私の番ね・・・」

ルージュだ

ルージュ「じゃあカーキを引くわ」

クリアか放出か

ジャラ

クリアだ

その後も

フォックス

トランクス

レムレス

天の助

ロックマンゼロ

海東

デネブ

ステップ長谷川

アंक

アクセル

と12人が鎖を引きクリアとなった

13番目は

照井「よし、行くか」

照井竜だ

照井「赤を引く」

モモタロス「何でだ？」

照井「俺に質問するな」

モモタロス「んだと、このやろう!!」

アルル「まあまあ、落ち着いて」

ジャラ

当たりだ

果たしてハズレの鎖を引くのは一体誰だ？

## オープニングゲーム（後書き）

感想をお願いします

## オーブニングゲーム2（前書き）

ソニック「今回の逃走中はゼロが2人いるんだよな・・・」

翔太郎「ああ、ロックマンXのゼロとロックマンゼロのゼロな、でも外見が違うよな」

フィリップ「翔太郎、ロックマンゼロの事は全部調べ尽くしたよ」

翔太郎「おお、そうか」

アミティ「教えて教えて」

フィリップ「ロックマンゼロの話の内容はロックマンXの出来事から100年後が特徴でゼロは妖精戦争と言う戦争を終わらせた後100年間封印されたがレジスタンスのシエルと言う科学者によって目覚められた。確かにXシリーズのゼロとは同一人物でもあるが風貌と外見が違い記憶を失っておりXシリーズの出来事をあまり覚えていないそのためかXシリーズよりクールになっているんだ。」

ナックルズ「なるほどな、でも100年間も封印されていたら記憶だってそりゃ無くすわな」

りんご「フィリップ君、ロックマンゼロの方にもエックスは出てくるの？」

フィリップ「勿論出てくるよ、彼は2つを戦争を終結させた伝説の英雄として知られているんだ」

りんご「2つの戦争を終結させたの！？スゴッ！！」

フィリップ「でもこの話はロックマンXの平行ワールドの出来事と言う可能性もあるんだ」

今回の前書きはロックマンゼロの事についてになりました

気を取り直して本編スタート

## オープニングゲーム2

オープニングゲーム

次の14番目は

エスピオ「自分の番か」

エスピオだ

エスピオ「ここは自分同じ色と言つ事で紫を選ぶ」

果たしてクリアかそれとも放出か

ジャラ

エスピオ「よしー!ー!」

クリアだ・・

15番目は

ルイージ「今度は僕だ・・」

ルイージだ

ルイージ「僕も緑を引くよせーの」

ジャラ

クリア

その後も

悟空

天道

ナツクルズ

ウィッチ

蓮

ゲベ

の6名もクリアした

そして22番目は

クツパ「吾輩の番か・・・」

クツパだ

フィリップ「僕の予想では彼が放出をする可能性が高い」

フィリップ以外「マジで!!」

クツパ「うわあ、何か怖い・・・黄緑を選ぶか」

果たしてクリアかそれともフィリップの言う通り放出か





ナツクルズ「確保情報・・・」

加賀美「クツパ確保・・・」

ドラコ「フィリップの予想が本当に当たったよスゴッ」

これより250分間の逃走劇が始まった

## オープニングゲーム2（後書き）

感想をお願いします

part - 1 (前書き)

本編スタート

part - 1

遂に始まった逃走中

250分間逃げ切れれば賞金がもらえる

ただしハンターにつかまれば賞金は0

そして自首電話で自首をすればその分だけの賞金がもらえる

この未来大都市レールシティで250分間逃げ切れる者は誰だ

翔太郎「遂に始まったか、警戒は常にしとかないとな」

警戒心を持つハーフボイルド探偵

翔太郎「ハードボイルドだ!!」

そこへ

ドンキー「お、翔太郎じゃないか」

翔太郎「おお、ドンキーか」

ドンキー「そう言えばお前の相棒すごかったぞ」

翔太郎「フィリップの事か？」

ドンキー「ああ、ハンターを放出する奴がクツパだって予想してその予想が当たったんだよ」

翔太郎「なるほど、あいつは調べたい事を全て調べる事だってできるからな」

ドンキー「スゲエな、所でせっかくあつたんだし合流しないか」

翔太郎「おう、別にいいぜ」

翔太郎、ドンキーと合流

エックス「未来大都市というだけあって広いな」

りんご「うん、どこからハンターがくるか分からないしね」

この2人はやはり一緒に行動していた

ソニック「気をつけろよアミティ、どこから出でくるか分からないからな」

アミティ「うんー!!」

この2人もだ

トウーン「250分て長いな」

ゲーム時間を見るトウーン

その彼の後ろにハンター

そして

ハンター「・・・!!」

見つかった

トウイン「……てオワア!!」

ハンターに気付き逃げるも距離が縮んで行くそして

ポンッ

トウインリンク確保残り94人

プルルルル

ロツクマンゼロ「確保情報……」

天道「西エリアにて……」

マリオ「トウーンリンク確保」

リンク「トウーンが捕まった!！」

フォックス「スマブラ側が早くも2人捕まった」

果たして逃げ切れるものは誰だ

part - 1 (後書き)

次回は最初のミッションが来ます

感想をお願いします

part - 2 (前書き)

第1ミッションが始まる

part - 2

「????」「フフ、さてまず最初のミッションを発動するか」

謎の男によって東エリアのショッピングモールの扉付近に指紋認証装置とハンター20体のいるボックスが転送された

これよりミッションがはじまった

ブルルルルル

映司「お、メールだ、なになに・・・ミッション」

ルカリオ「これより220分になると・・・」

バーダック「ハンター20体が放出するおいおいマジかよ」

ポーポポ「それを阻止するには・・・」

マツシモ「東エリアのショッピングモールの扉付近にある指紋認証装置を20人認証をしなければならぬ」

ウラタロス「行くか行かないかは自由だ、これはやばいね」

ミッション

ハンター20放出を阻止せよ

これより220分になるとハンターが20体放出する

それを阻止するには東エリアのショッピングモールの扉付近にある指紋認証装置を20人が認証しなければならぬ

行くか行かないかは逃走者の自由だ

ゼロ「よし、行くか!！」

シャドウ「行くか」

アコール先生「皆さんのために行きましょう」

ラフィーナ「行きますわ!！」

伊達「行こうか後藤ちゃん」

後藤「はい、伊達さん!！」

マッシモ「よし、この鋼鉄のマッシモ良いと」見せるぞ!！」

カービィ「誰かがいくでしょう」

ワリオ「誰が行くかつ」の

パラガス「怖いから行かない」

行くものがいれば行かない者もいる

映司「あ、いた、おいアंक」

アंक「やっと来たか」

この2人は待ち合わせをしたようだ

映司、アंकと合流

映司「所でアंकミッションの方行くか？」

アंक「そうだな、ハンターが20体は厄介だからな」

映司「よし、じゃあ早速行こう!!」

シルバー「ん？これか指紋認証装置で」

偶然指紋認証装置を見つけたシルバー

シルバー「よし、早速認証するか！！」

ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ――――

認証完了残り19人

シルバー「偶然だけど、よし！！」

ブルルルル

ピッコロ「認証完了残り19人」

ナツクルズ「早えな」

アルル「誰がやったんだろっ?」

ブレイズ「・・・私も行くか」

果たしてミッションクリアとなるか

part - 2 (後書き)

感想をお願いします

part - 3 (前書き)

現在指紋認証残り19人

真司「指紋認証装置は確か東エリアのショッピングモールの扉付近にあると言ってたよな」

彼も認証装置を探している

プルルルルル

スパイダー「ん？、通達か・・・」

モモタロス「これよりレールシティのどこかにアイテムが設置した・・・」

ルージュ「そのアイテムは君たちの逃走に役立つだろう、アイテム

ねえ  
」

通達

これよりレールシティにアイテムが入った宝箱が設置された

そのアイテムはエリアの設置され見つけたアイテムは逃走者たちの  
役に立つだろう

ロククマンゼロ「……………ん？、宝箱  
」

宝箱を見つけたゼロ

ロククマンゼロ「中身は……………冷凍銃  
」

冷凍銃

それはハンターを1分半の間に凍らせることができる便利なアイテムだ

ロックマンゼロ「一応身を隠すか」

ゼロはビルに身を隠す

ラフィーナ「早く東のショッピングモールにいかないと」

ロックマンゼロ「あれは、ラフィーナか」

そしてゼロはラフィーナを見かけた

そして彼女の後ろにハンター

まだ彼女は気づいていない

そして

ハンター「!!」

見つかった

ラフィーナ「ん、きゃあああああああああああああ!」

ゼロ「ん、こっちに来ている・・・」

ハンターとラフィーナとの距離は縮んでいく

そこへ

ザッ

ゼロが堂々と自分から飛び出してきた

ラフィーナ「え!？」

ロックマンゼロ「ハア!!」

ブシューーーーーー

ゼロはさっき手に入れた冷凍銃を使った

そして

ハンター、フリーズ

ロックマンゼロ「・・・」

ラフィーナ「あ、ゼロさん、ありがとう」

ロックマンゼロ「気にするな」

ラフィーナ「所でミッションは行きますの?」

ロックマンゼロ「そのつもりだ」

ラフィーナ「では一緒に行きませんか?」

ロックマンゼロ「構わん」

ラフィーナ、ロックマンゼロと合流



マッシモ「よしー!」

プルルルル

マリノ「認証残り18人・どうしようかな、私は」

果たしてミッションクリアとなるか



part - 3 (後書き)

感想をお願いします

part - 4 (前書き)

認証残り18回

part - 4

真司「お、これかさつき通達で言ったアイテムは」

宝箱を見つけた仮面ライダーの1人

真司「中身は・・・ん？これハンターがかけているサングラスじゃん、お、紙だ、なにになに無敵サングラス」

真司が手に入れたのは、無敵サングラス

それは装着してから2分半間ハンターに見つからないと言つとても便利なアイテムだ

真司「スゲエもん手に入れたわ〜ラッキーでもこれはハンターが来てからかけよ」

もしもの時にとっておく

シナモン「私もミッションに行きます」

認証装置を探しに行くシナモン

だが彼女の後ろの短距離にハンター

そして

ハンター「!!」

見つかった

シナモン「……キャア!!」

ポン

シナモン「確保残り93人

シナモン「捕まってしまいました・・・」

プルルルルル

連「確保情報・・・」

リデル「南エリアにて・・・」

首領パッチ「シナモン確保」

マリノ「シナモンが!!」

スパイダー「シナモンが捕まってしまったか」

エックス「よし、見つけたぞ!!」

りんご「早く認証しよ」

この2人もたどり着いた

そこへ

伊達「お、エックスちゃん、それにりんごちゃんも来てたのか」

りんご「あ、伊達さん、後藤さん」

エックス「後藤さん達も認証に」

後藤「当然だ」

そしてバースコンビもたどり着いた

伊達「じゃ、早速認証しますか」

ピッ、ピッ、ピッ、ピーーーーー

そして後藤、エックス、りんごの3人も指紋を認証した

認証完了残り14回

伊達「じゃ、また会おうぜお2人さん」

伊達はそう言いながら後藤と一緒にエックス達と別れた

りんご「私達も行こう」

エックス「そうだな」

ブルルルル

ファルコ「お、認証残り14回」

ナックルズ「一気に4人やってくれたぜ」

シルバー「こねってクリアになりそうじゃねえの」

果たしてミッションクリアとなるか

part - 4 (後書き)

感想お願い致します

part - 5 (前書き)

認証残り14回



翔太郎「なあ、ここで一旦別れねえか」

ドンキー「そうだな、」

翔太郎「じゃあなドンキー」

翔太郎とドンキーは別れた

天道「東エリアまであともう少しか」

認証装置を探しに行く、天の道をいき総てを司る男

だが彼の後ろにハンター

天道「ん、ハンター!!!」

天道はいち早くハンターに気付き早足で逃げる

だが

ハンター「!!!」

見つかった

天道「見つかったか、だが!!!」

天道はスピードを上げハンターとの距離が開いていく

ハンター「・・・」

見失ったようだ

天道「・・・フン」

どうやら余裕だったようだ

アミティ「見つけたよソニック!!」

ソニック「よし、早速認証しようぜ!!」

認証装置にたどり着いたソニックとアミティ

ピッ、ピッ、ピッ、プー————

認証完了残り10人

プルルルル

マリオ「お、認証残り10回」

ブレイズ「私も早くいかないか」

シルバー「とうとう10回までいったか」

だが彼の後ろにハンター

ハンター「!!」

見つかった

シルバー「ん？ヤベエ!!」

シルバーは気づき逃げる

そこへ

ワリオ「またかよ!!」

ワリオがまた巻沿いを食らった

標的はワリオに変わった

そして

ワリオ「ぎゃあああああああああああああああああああああ  
！！！！」

ポン

ワリオ確保残り92人

ワリオ「2度目じゃねえか、ふざけんな！！」

プルルルルル

ファルコ「確保情報」

メタナイト「西エリアにて・・・」

シャドウ「ワリオ確保」

フォックス「お、あのバカが捕まった」

デデデ「わしらの事下僕と言った奴など知ったこっちゃないZOY」

翔太郎「お、あんた確かパラガスだっけ？」

パラガス「おお、左か」

偶然パラガスを見かけた翔太郎

翔太郎「何やってんだ？」

パラガス「それより聞きたいことが」

翔太郎「なんだ？」

パラガス「ここ、どこ？」

翔太郎「え？ここは南エリアだぜ」

パラガス「ああそうか」

翔太郎「ちよつと待て、まさか・・・」

パラガス「道に迷った（泣）」

翔太郎「ええ〜！！いい大人でしかも親が迷子になったのかよ」

パラガス「普通にいえばそう言う事になる」

翔太郎「うわ〜、情けなッ！！」

翔太郎「まあこれで道が分かっただろ、じゃあな」

翔太郎は走っていった

パラガス「まさかこの親父が2度も迷子になるとは」



果たしてミッションクリアとなるか

part・5 (後書き)

感想をお願いします

part - 6 (前書き)

認証完了まで残り9回

part - 6

天道「見つけたぞ、認証装置」

認証装置にたどり着いた天道

天道「認証するか」

ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ――

認証残り8回

プルルルルル

ルージュ「認証残り8回」

ルルー「私もいこうかしら」

土「ハンターか、ここは隠れるか」

ハンターをいち早く見つけ身を隠す門矢土、仮面ライダーディケイド

土「ん？あれは確かアコールて人か、後ろにハンターがいること気づいていないな」

アコール先生「認証装置まで向かいませんと」

まだ気づいてない

ハンター「!!」

見つかった

アコール「東エリアは……、ハンター!!」

そしてアコール先生もハンターに逃げる

土「やっぱり気づかれたか、しょうがない」

土はそう言いながら冷凍銃を持って向かった

どうやら数分前に冷凍銃を手に入れたようだ

ハンター「!!」

標的は土へと変わった

士「喰らえ!」

ブシューーーーー

ハンター、フリーズ

士「まあ、こんなもんか」

アコール先生「ありがとうございます、土さん」

土「別にいいって」

アコール先生「土さん、ミツ……」

土「言いたい事はだいたい分かってるミツシヨンの方は行くかだろ、  
勿論そのつもりだぜ他のライダーも行く奴が多いだろうしな」

アコール先生「では一緒にいきませんか？」

土「別にいいぜ」

土、アコール先生と合流

海東「これだね認証装置は・・・ん？」

真司「やっと着いた」

照井「ここだな」

トランクス「あ、海東さん」

海東「やあ君達も来たのかい」

照井「当たり前だ」

真司「早く認証しようぜ」

海東「まあ、待ちたまえ、僕が先だ」

ブツ、ブツ、ブツ、ブツ――――

そして照井、真司、トランクスの3人も認証をした

認証残り4回

ブルルルル

リデル「認証残り4回」

ルルー「もう4回も、早いわね」

クルーク「これはミッションクリアになる可能性が高いね」

だが彼の後ろにハンター

ハンター「!!」

見つかった

クルーク「……ん？ウヒヤヒヤ————  
——!!」

クルークもいち早く気づき逃げる

そこへ

ウィッチ「ちよ、なにハンター連れ込んでんの!」!

ウィッチが巻沿いを食らった

そして2人とハンターの距離は縮んでいく

そして

クルーク「ウヒャヒャー――――――  
――――！！！！」

ウィッチ「オイツー――――――  
――！！！！」

ポン

クルーク、ウィッチ確保残り90人

プルルルル

蓮「確保情報・・・」

ドラコ「北エリアにて・・・」

ナックルズ「クルーク、ウィッチ確保」

ベクター「ぷよぷよ系が一気に2人捕まったぜ」

果たしてミッションクリアとなるか

part - 6 (後書き)

感想をお願いします

part - 7 (前書き)

認証完了まで残り4回

part - 7

現在225分、

ハンター20体放出まで残り5分

ゼロ「よし、着いたぞ」

東エリアショッピングモールにたどり着いたゼロ

そして

ルイーダ「あ、ゼロ!!!」

ゼロ「ルイーダか、お前も認証を」



ブルルルル

スパイダー「認証回数、残り2回」

ドラコ「もう2回も！？時間はあと5分もあるよ」

シグ「早いな」

リュカ「もう2回か行こうかな」

ミッションの事を考えているリュカ

だが彼の近くにハンター

リュカ「うん」

ハンター「・・・!!」

見つかった

リュカ「・・・ん？やばい!!」

リュカもハンターに気付き逃げる、だがハンターとの距離は縮んでいく

そして

リュカ「うわぁ!!」

ポン

リュカ確保残り89人

リュカ「ハンター、早すぎる」

プルルルル

リデル「確保情報・・・」

ポーボボ「西エリアにて・・・」

マッシモ「リユカ確保」

ネス「リユカが！」

スネーク「あいつ、捕まってしまったのか」

士「ここか、指紋認証装置があるショッピングモールは」

アコール先生「早速認証しましょう」



サタン「ミッションの結果・・・」

悟飯「シルバー・ザ・ヘッジホッグ、マツシモ、伊達明、後藤慎太郎、エックス、あんどうりんご、左翔太郎、ドンキーコング、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、アミティ、シャドウ・ザ・ヘッジホッグ、天道総司、海東大樹、城戸真司、照井竜、トランクス、ゼロ、ルイージ、門矢士、アコール先生の20名によって・・・」

ベジータ「ミッションクリア」

デイディー「お、ドンキーもやってくれた」

ロックマンゼロ「もう一人の俺もやったのか・・・」

リデル「先生もやってくれたんですね」

マリノ「お、マツシモやるね〜」

シエゾ「てか、仮面ライダー組がミッションに言った奴多いな〜」

孫「さすが仮面ライダーとこだね」

ミッション「無事クリア」

そして次にくるのはミッションかそれとも通達か

part - 7 (後書き)

感想をお願いします

part・8 (前書き)

そして次のミッションが

part - 8

現在 217分

突如全エリアのビルに映し出された4つのドクロマーク

ブルルルルル

メールだ・・・

サムス「ミッション・・・」

ウルフ「これより東、西、南、北全てのエリア内のどこかのビルに  
4つのドクロマークが映し出された・・・」

チャーミー「その4つのマークは残り7分までになると・・・」

スパイダー「残ってるマークと同じ数の・・・」

加賀美「通報部隊が投入する、通報部隊!?!」

ナツクルズ「厄介だぜこりゃあ」

## ミッション2

通報部隊投入を阻止せよ

これより210分になると映し出されているマークと同じ数の通報部隊が投入される

マークを消すには、マークが映し出されているビルの近くにあるレバーを下ろさなければならない

なおマークは、1 - 4までナンバリングされており順番に消さなければならぬ

なお、西が1、北が2、東が3、南が4と置かれている

エスピオ「行くか」

加賀美「通報部隊なんて投入されたらまずい」

悟空「いつちよ行くか」

シエゾ「今俺は南エリアにいるか」

自分が現在いる場所を確認するシエゾ

だが彼の後ろにハンター

そして

ハンター「!!」

見つかった

シエゾ「ん？ヤベエ、ハンターだ!!」

シエゾハンターに気付き逃げるがハンターとの距離が縮んでいく

そして

シエゾ「オワア!!」

ポン

シエゾ・ウイグイイ確保残り88人

シエゾ「くそ」

プルルルルル

蓮「確保情報・・・」

キンタロス「南エリアにて・・・」

アクセル「シェゾ・ウイグイイ確保」

アルル「シェゾが捕まった!!」

ロックマンゼロ「今俺達は西エリアにいる」

ラフィーナ「ナンバリング1は西にあるて言ったわね、行きましょ  
!」

ロックマンゼロ「ああ・・・」

この2人は偶然西エリアにいたようだ

果たしてミッション2もクリアとなるか

part - 8 (後書き)

感想をお願いします

part - 9 (前書き)

現在消せるドクロマークはナンバリング1

part - 9

翔太郎「よお、待たせたなフィリップ」

フィリップ「遅いよ、翔太郎」

翔太郎「悪い悪い」

どうやらこの2人も待ち合わせをしてたようだ

翔太郎、フィリップ、合流

翔太郎「じゃ、早速ドクロマークがあるところまで行くっぜ」

フィリップ「そうだね」

スパイダー「おっと、ハンターだ!!」

ハンターをいち早く見つけ身を隠すスパイダー

ハンター「・・・」

スパイダー「よし、もう行ったか」

上手くやり過ごせたようだ

マリオ「このミッション、めんどくせえから行かねえわ」

ミッションには行かないスーパースター

天の助「お、いい隠れ場所見つけた」

隠れ場所を見つけたところてん

天の助「少しの間、ここで隠れるか」

リデル「私も・・ミッションに行きます」

ハンターマークを消しに行くリデル

ステップ「お、あれマッスルじゃん、おーいマッスル!」

マッスル「おお、ステップ!」

ステップ「何やってんだ？」

マッスル「隠れ場所を探してたんだよ」

ステップ「ああ、実は俺も同じだ」

マッスル「じゃあ一緒に行動しているしよっぜ」

マッスル「竹田、ステップ長谷川、合流」

ステップ「お、ここいい隠れ場所じゃん！..」

マッスル「よし、ここに隠れようぜ！..」

そして2人は隠れた

ステップ「そう言えばマッスル、自首の方考えてるか」

マッスル「うん、そこ考えてなかったな」

ステップ「じゃあさ、俺ら2人一緒に自首しないか、全てのミッシ  
ョンは他の奴らに任せ、俺らはひたすら隠れてそして数10分ぐら  
いで2人で自首で感じだ」

マッスル「おお、それいいな、ミッション他の連中に任せ、こつち  
は隠れそして2人で仲良く自首か、どうせ逃走成功は無理だしな」

ステップ「だろ」

2人「ぐへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへへ」



ラフィーナ「どうしたんですの？ゼロ」

ロックマンゼロ「いや、後ろがなんか嫌な空気がした感じが・・・」

ラフィーナ「気のせいだと思うわよ、ん？あれはドクロマークー！」

2人はドクロマークナンバリング1を見つけた

ロックマンゼロ「これがレバーか・・・」

ガシヤン

ドクロマークナンバリング1停止、残り3個

プルルルル

ブロリー「ナンバリング1停止・・・」

ドラコ「そして現在消せるドクロマークは北エリアのナンバリング  
2」

ラフィーナ「やりましたわ!」

ロックマンゼロ「行ってる者もいると思うが」  
「一応北エリアに向かうぞ」

ラフィーナ「そうね」

果たしてクリア出来るか

part・9 (後書き)

感想をお願いします

part - 10 (前書き)

牢獄

シエゾ「皆、りゅーとさんから差し入れにアツシユが作ったケーキをくれたぞ」

トウーン「おお、ケーキだ」

ウィツチ「逃走者全員分ありますわ」

シナモン「ありがとうございます、りゅーとさんアツシユさん」

クツパ「先に吾輩達の分を食うか」

りゅーとさん差し入れありがとうございます

現在消せるドクロマークは北エリアのナンバリング2

ベジータ「今消せるドクロマークは北エリア、現在俺がいる場所は南エリアだ」

ドクロマークを消しに行くサイヤ人の王子

ベジータ「やはりいち早く南エリアのマークが映ってるビルまで行くか」

べつやら南エリアのドクロマークまで向かい待ち伏せをするようだ

そこへ

悟空「よぉ、ベジータ」

ベジータ「カカロットか、お前もドクロマークを消しに行くのか」

悟空「ああ、今から北エリアっちゅうところまで向かってただ!!」

ベジータ「そうか、だがカカロット、俺はお前より長く逃げ延びてやる」

悟空「ああ、だったらオラも負けねえぞ、どっちが長く逃げ延びるか勝負だ!!」

そう言って悟空は北エリアまで向かった

ベジータ「カカロット、俺は必ず貴様に勝つてやる!!」

逃走中でもライバル心を持つようだ

エミー「ハンターがどこから来るか分からないわ……」

ハンターに警戒するエミー

そしてエミーの前に誰かの物影が

エミー「だ、誰!？」

物影の正体は

ハンター「!!」

ハンターだ

短距離で見つかったため逃げる事は不可能

ポン

エミー・ローズ確保残り87人

エミー「怖かった」

ブルルルル

フォックス「確保情報・・・」

ドラコ「東エリアにて・・・」

アクセル「エミー・ローズ確保」

ナックルズ「エミーが捕まっちゃったか」

牢獄

エミー「やっと着いたわ〜、で、どうしたのそのケーキ？」

シナモン「ポップンミュージックのアッシュユさんのケーキをりゅーとさんが差し入れてくれたんです」

エミー「へえ、アタシも食べよ」

シェゾ「これ本当うまいぜ!」

ウィッチ「ホントホント、あ、ゼロ、それにラフィーナじゃない」

ラフィーナ「あら、どうしたんですのそのケーキ?」

クツパ「りゅーとさんからの差し入れだ」

ロックマンゼロ「逃走者全員分あるな」

シナモン「ゼロさん、頑張ってください、私両方のゼロさんを応援してますから」

ロックマンゼロ「そうか・・・」

シェゾ「そう言えば今こっちにいるゼロとシナモンが知ってる方の  
ゼロで同一人物だからな」

ワリオ「それにしても復活ゲームとかねえのかなもしあつたら俺様  
のために動いてもらうぞそこの下僕2人」

ゼロ&ラフィーナ「・・・」

数分後

ラフィーナ「行きましょ、ゼロ」

ロックマンゼロ「・・・」

ワリオはあの2人によって血まみれにされた

ワリオ以外「今はワリオは悪い」

クルーク「でもあの2人結構気があったね、どうしたんだろ？」

一方逃走者は

映司「見つけた、ナンバリング2だ!!」

アंक「よし、さっさと消すぞ!!」

映司「レバーは……これだ!!」

ガシャン

ナンバリング2停止

ブルルルル

バーダック「ドクロマークナンバリング2停止」

サタン「現在消せるマークは東のナンバリング3」

果たしてミッションクリアとなるか

part - 10 (後書き)

感想をお願いします

part - 11 (前書き)

現在消せるナンバーリングは東エリアの3

バーダック「おお、カカロットじゃねえか、どうした？」

悟空「お、父ちゃん」

息子の悟空と会った父バーダック

悟空「ドクロマークっちゅうもんを消しに向かってたんだ」

バーダック「お前えは行く方が」

悟空「父ちゃんは行くのか？」

バーダック「ああ、俺は考えてなかったわ」

悟空「そうか、じゃあオラもう行くぞ、じゃあな父ちゃん!」

バーダック「おう、頑張れよ!」

シャドウ「後ろにハンターがいた」

前にハンターにいることに気づき後ろに移動するシャドウ

ハンター「・・・」

気づかれてないようだ

じーさん「あゝ暇だな」

と言うセリフを言いながら鼻をほじくりまくるじーさん

マッスル「お、結構賞金が増えまくってるぞ」

ステップ「もう少ししたら2人で仲良く自主」

2人「ぐへへへへ」(笑)

再び卑劣な笑いをする

ネス「東か、今いる場所は北だな」

ドクロマークの場所と自分の居場所を確認するネス

だが彼の前にハンター

ハンター「!!」

見つかった

だが確認をしてる為ネスはまだ気づいていない

ネス「……て、うおお!!」

ポン

ネス確保残り86人

ネス「まさか前にいたとは」

プルルルルル

ファルコ「ああ？確保情報・・・」

モモタロス「北エリアにて・・・」

エスピオ「ネス確保」

牢獄

トウーン「お、ネスも来たぞ」

ネス「フウー、着いた〜、お、ケーキじゃんどうしたんだこれ？」

エミー「りゅーとさんの差し入れよ、ポップンミュージックのアッシュが作ったんですって、美味しいわよ」

ネス「へえ〜、で次はこの血まみれなんだ？」

クツパ「これはワリオだ、何でこうなってるかというと牢獄にやってきたゼロとラフィーナの事を下僕と言っててそれに怒ってボコしてた」

ネス「あの2人一緒に行動してたんだ、て、ゼロでどっちの方？」

ウィッチ「ロックマンゼロの方よ」

ネス「へえ」

一方逃走者は

ブロリー「ダメ親父はどこにいるんだ」

やはり父パラガスをダメ呼ばわりする伝説の超サイヤ人

ブロリー「……ん？あれはドクロマークか」

マークナンバリング3を偶然見つけたブロリー

ブロリー「レバーを引けばいいんだな」

ガシヤン

ナンバリング3停止

ピッコロ「ナンバリング3停止」

悟空「かあ〜先越されたか〜」

ベジータ「よし!!ナンバリング3を消した、今ならこれも!!」

どうやら数分前に南エリアのナンバリング4のビルに着いたようだ

ガシヤン

ナンバリング4停止ミッションクリア

ブルルルル

フォックス「ナンバリング4停止、早!!」

パラガス「結果・・・」

スパイダー「ゼロラフィーナ、火野映司アング、ブロリー、ベジータの6名によって・・・」

サタン「ミッションクリア」

伊達「お、今度は火野とアングもやったな」

後藤「アングです、伊達さん」

ゼロ「もう1人の俺はラフィーナと行動してたのか」

ミッション2無事クリア

そして次のミッションは・・・

part - 11 (後書き)

感想をお願いします

part - 12 (前書き)

今度は・・・

part - 12

現在205分

真司「ミッションくるの遅いな・・・」

アミティ「次のミッションはなんだろう・・・」

ソニック「さあ、でも油断はするなよ」

アミティ「うん」

逃走中司令部

???「ミッション2もクリアか、次の方は頼んだぞ、バスコ・ダ・ジヨロキア・・・」

バスコ「分かってるって、へえ〜これが逃走者達ね、中々面白そうなのばっかじゃない」

サリー「ウキー」

謎の主催者の言葉と共に海賊の格好をした青年バスコと人間くらい  
の大きさの猿サリーが現れたどうやら協力者のようだ

「????」早く行ってくれ」

バスコ「ハイハイ、じゃ、行ってきます」

サリー「ウツキー」

「????」では、今度は通達その2の内容メールを送るか」

逃走者達に通達その2のメールが送られた

ブルルルルル

孫「今度は通達が来た!!!」

ベクター「なになに、通達2チャンスバトル、すなわち戦いだ・・・」

フォックス「まずはモニターが出てくる、それを見たまえ」

ヴォン

そしてレールシティの真上からモニターが現れた

バスコ「やあ、逃走者諸君、俺はバスコ・ダ・ジヨロキア、逃走中の主催者の協力者だ」

どうやら東エリアのビルの屋上でモニターを撮影しているようだ

バスコ「では本題と行こうか、今回の通達はメールの言った通りチヤンスバトルすなわち現在205分から175分の30分の間5体の敵と戦う事になる、そして1人倒せばボーナスとして1秒100円アップする全5体の敵を倒せば1秒300円から最大800円になるよ、そして5体のハンターは一時停止し自首や技や能力使用は可能、だが敵に敗れた場合はハンターに捕まったと同様、確保となるぜ、じゃ、肝心の敵を紹介するよ」

とバスコはラツパ型アイテムラツパッター戦士の形をしたような鍵レンジャーキーを鍵穴に差し込みラツパッターを吹くとレンジャーキーが実体化し5人の戦士が現れる

右から大剣人ズバーン、黒獅子リオ、デカマスター、ウルザードフアイヤー、黒騎士ヒュウガが現れた

海東「あれは確か・・・」

海東は実体化戦士をみて反応した

バスコ「こいつらが敵だ、じゃ、行ってらっしゃい!!」

バスコの一言と共に実体化戦士は各地に散った

通達その2 実体化戦士を倒し賞金アップせよ

この205分〜175分間にハンターの代わりにバスコ・ダ・ジヨロキアによって5体の実体化した戦士が現れた、その戦士を倒せば賞金アップとなるそして全5体の戦士を倒せば1秒300円から800円へとなる、そしてそれぞれの逃走者の技や能力は使用可能となった、なお仮面ライダー組も変身可能となる  
ただし戦闘不能になればハンターに捕まったと同様強制確保となる  
なおこのシティのどこかに回復アイテムも用意した

加賀美「さっきの5体を倒せば賞金アップするのか」

ルルー「でも何なのあれ？」

ルイージ「何か強そうて感じがする」

ファルコ「お、海東からのメールだ」

海東が全員にメールを送った

海東のメール内容

「気を付けたまえ、敵はスーパー戦隊を呼ばれる戦士達だ、彼らは様々な驚異から守った伝説の戦士達だよ、だが彼らは宇宙帝国ザンギャックとの戦い、レジエンド大戦で勝利した代償に力を失いその力はさつきバスコが持ってたレンジャーキーとなった多分彼があおラップで実体化させたのだろう、あれは実体化させた者だから力の塊、すなわち心のない操り人形だが実体化した戦士は番外戦士と呼ばれ中でも最強クラスの戦士ばかりだ、十分に気を付けたまえ」

アミティ「ええ！？様々な驚異から地球を救った戦士なのやばいじやん！！」

ナツクルズ「中でも最強クラス、通りで強そうだと思っただぜ」

果たして逃走者はこの最強の敵達に勝てるか

part - 12 (後書き)

僕もアクアイドさんやりゅーとさんと同じ戦い系もやっちゃいました

part - 13 (前書き)

通達その2現在の敵の数5体

スパイダー「この30分の間敵を倒せば賞金アップ、悪くねえな」

ルイーダ「敵が最強クラスの戦士だからね、一筋縄では勝てないと思っよ」

ナックルズ「腕がなるぜ」

校長「ん？敵なのじゃない」

校長が見かけたのは敵の黒獅子リオ

校長「こいつを倒せば全逃走者はワガハイの凄さがもっと分かるのじゃない」

ザッ

校長が堂々と自分からリオの前から現れた



校長強制確保残り85人

プルルルル

ゼロ「敵の黒獅子リオによって・・・」

シャドウ「校長確保・・・」

ファルコ「なお、3秒で負けた」



そこへ

マッスル「よおパラガス」

パラガス「おおマッスル、それにステップ」

ステップ「パラガスも隠れ場所を？」

パラガス「勿論」

マッスル「じゃあパラガスもこの作戦に乗らないか」

マッスルはパラガスにあの提案を説明した

パラガス「ミッションやこの通達を他の逃走者に任せこつちはひたすら隠れ数10分後に自首かい提案だ私もその提案に乗ろう!!」





マッスル竹田、ステップ長谷川、パラガス、強制確保残り82人

自分達だけ抜け駆けしようとした罰だ

プルルルルル

悟空「敵のウルザードファイヤーによって・・・」

アルル「マッスル竹田、ステップ長谷川、パラガス確保・・・」

ブロリー「なお、この3人は全ミッションは他人に任せ自分達その間に自首しようとした、チッ、ダメ親父が！！」

ナツクルズ「そんな事考えてたのかあいつら!!」

ロックマンゼロ「さっきのあの不気味な感じはあいつらだったのか」

ラフィーナ「自首しようとした人が本当にいたのね」

牢獄

エミー「皆が必死に頑張っているのに自分達だけ抜け駆けしようとするなんて!!」

シナモン「マッスルさん、ステップさん、パラガスさん最低です！  
！」

トウーン「そして敵よ、ナイスだったぞ！！」

クツパ「後で全員で説教だ」

全員大激怒だ

果たして逃走者は敵を何体倒せるのか

part - 13 (後書き)

感想をお願いします

part - 14 (前書き)

現在の敵の数5体

マリノ「一気に4人捕まったね、しかもその4人はアホなやられ方を・・・」

伊達「さてと、敵はどこにいるかな？」

後藤「油断しないで下さいよ伊達さん」

伊達「分かってるで」

牢獄

ちなみに例の3人は正座中そして差し入れのケーキも食べさせない事に

ウィッチ「今回の通達はチャンスで感じよね」

トウーン「全5体倒せば最大800円になるからな」

シエゾ「ん？おい、あれ敵じゃねえのか」

エミー「え？あれが!!」

そう牢獄の前に敵の黒獅子リオが通りかかった

そしてリオはワリオに向かって指招きをした

ワリオ「俺を読んでるのか」

ワリオはこの時だけ牢獄を出ていい許可がとれ、ワリオは、リオの前に行った

ワリオ「なんの用・・・」

ドゴン！！！！

ワリオ「グボア！！！！！！」

ワリオ以外「ブツ、ハハハハハハハハ（大爆笑）」

なんとリオはワリオに強烈な腹パンチをした

ウィッチ「な、なんで殴るの？別にワリオだからいいけど（爆笑）」

ヴォン

そしてまた真上からモニターが現れた

バスコ「あゝそれと言い忘れた事が2つあるけど、この通達の敵はワリオて奴を見かけたら即攻撃するように命令したから敵は牢獄に来たらワリオて奴をを攻撃するので、それともう1つ通達ではこのシティのビルやショッピングモールとかの中に入る事もオツケーだよ、じゃ」

ワリオ「ぐおおゝ肋3、4本はいったかも、てかふざげんな」

ワリオ以外「受ける〜（笑）」

ワリオ「お、お前ら、偉大ワリオ様大丈夫ですかとかそう思わねえのか〜」

ワリオ以外「誰が思うかバーカ」

ロックマンゼロ「この通達だけはビルの中とかに入れるのか・・・」

ラフィーナ「ええ今回だけエリア拡大になったって感じね」

シルバー「しかも敵は牢獄でワリオを見かけたら即攻撃するのか、  
ま、別にいいけど」

孫「一応ビルの中に入って隠れよう」

真司「敵はどこに居るんだ」

このかつてないほどの通達、果たして敵を何体倒せるか

part - 14 (後書き)

感想をお願いします

part - 15 (前書き)

現在の敵の数5体

part - 15

翔太郎「さて、フィリップ、この通達の敵の、スーパー戦隊の事はもう調べたのか？」

フィリップ「勿論、もう調べたよ、現れた時は変身した時にその敵の能力とかを教えるよ」

翔太郎「ああ、頼んだぜ！！」

天の助「敵は強そうだから絶対会いたくねえな」

敵に怯える天の助

天の助「俺がやったってどうせ負けるじゃん」

ポンポン

天の助「え？」

誰かが天の助の肩き天の助は後ろを振り向いた、そして肩を叩いたのは

敵の黒騎士ヒユウガだ

天の助「ぎゃあああああ！ー！言ってるそばから現れたあああああああああああ！ー！ー！ー！」

黒騎士は自分の愛用の剣ブルライトを天の助に向け切りかかる  
うとした

だが

天の助「待つてください、実はあなたのために、スープを作ったんですよ。よかったら食べてみて下さい！！」

天の助はどこから持ってきたのかテーブルを用意し、黒騎士をテーブルに座らせた

天の助「ささ、どうぞ」

天の助は笑顔でスープを用意した

だが黒騎士は食べない（当たり前だけどね）

そして

天の助「早よ食えや！！！」

ガシャン！！

なんと天の助はスープを黒騎士の顔に押し付けた

そして

ズバズバズバズバズバ！！

黒騎士はブルライアットで天の助を細切れに切り刻んだ

天の助「私つたらまたやつちやつたああああああああああああ  
ああああああ!!!」

天の助はお約束通り細切れになった

ところ天の助、強制確保残り81人

自業自得だ

ブルルルルル

シャドウ「黒騎士ヒユウガによって・・・」

蓮「ところ天の助確保」

ポーボボ「捕まると思ったぜ」

魚雷ガール「知ったこっちゃないわあんな使えないバカは」

首領パッチ「天の助？ああ、あのお昼の番組でサングラスかけてた人でしょ、え、違うの？」

真司「どんなやられ方したんだ？あのところてん」

モモタロス「あいつ、ところてんの癖に味がライチなんだよな」

ラフィーナ「結構やられてる人が多いですわね、それにどこに来るか分からないわ」

ロックマンゼロ「……!!」

ラフィーナ「……ゼロ、どうかしたの？」

ロックマンゼロ「よける!!」

ラフィーナ「!!」

ズドーーーーー

ラフィーナは最初ゼロがどうしたかと聞こうとしたがゼロがよけると言ったと同時にラフィーナも感づき、次の瞬間、衝撃波が現れたが2人は間一発それをよけた

そして2人の前にデカマスターが現れた

あの衝撃波は愛用の剣ディースードベガで放ったようだ

そしてゼロも十の光る剣ゼットセイバーを構えた

ロックマンゼロ「お前も戦うのか、行っておくが奴は強いぞ」

ラフィーナ「ええ、私も戦うわ」

そしてラフィーナは返事をし、戦闘体制に入った

ロックマンゼロ「そうか、行くぞ」

果たして最強の敵デカマスターを倒せるか

part - 15 (後書き)

今までギャグばっかでしたがこの戦いとかはマジです

感想をお願いします

part - 16 (前書き)

V S デカマスター

part - 16

前回ゼロ、ラファイーナ2人の前にデカマスターが現れ今ゼロとラファイーナの2人はデカマスターに戦いを挑んでいた

ロックマンゼロ「ハア!!、テヤア!!」

ゼロはゼットセイバーでデカマスターを切ろうとしたが、デカマスターはそれをディースードベガで受け止めた、そしてそこから2人は斬り合いをする

キーン

ロックマンゼロ「くう!!」

そして動きは止まり今度はお互いを睨みそして剣をつば競り合う

ロックマンゼロ「ハア!!」

そしてゼロはデカマスターを蹴り、距離を離れさせた

そして

ラフィーナ「ネージュー！、シエルアークー！」

そこへラフィーナが2発攻撃をしたがそれもよけられた

そしてゼロもバスターショットでチャージショットを3発撃つたがそれもディーソードベガで切り払われた

そして今2人とデカマスターは動きを止まっただけだ

ラフィーナ「様々な驚異から地球を救った戦士と呼ばれただけあって、強いわー！」

ロックマンゼロ「ああ、特にこいつは中でも1番強い方だ、それとラフィーナ、もしこれ以上は無理だと思った場合は逃げる、その時はオレ1人でやる」

ラフィーナ「ありがとう、でもそっちもその時は無理しないでね」

ロックマンゼロ「分かった、．．来るぞ!」

デカマスターは2人を切ろうと走りかかって来た

そこへ

ズダダダダダダダ

2人「!!」

突如、銃弾がデカマスターに直撃しデカマスターは倒れた

そして

プロトバース「ひゅ〜全弾直撃!!」

バース「助けに来たぞ、ゼロ、ラフィーナ!!」

ゼロとラフィーナが後ろを振り向くと、バースドライバーと言うベルトを装着をし、ベルトの中心部のカプセル・セルアクリターと同じ白と緑のハーフカラーに彩10個の球体・リセプタクルオーブがあり体の周りは黒のスーツをベースにしたアーマー、そして頭部の一番大きな頭部の周囲にU型複眼が生成して銀と緑の鎧に包まれた戦士、仮面ライダーバースと外見がほぼバースだがバースの全リセプタクルオーブ部分に赤いラインが入ったプロトバースが立っていた

どうやらバースとプロトバースの専用の銃バースバスターで攻撃したようだ

ロククマンゼロ「まさか、伊達と後藤か!!」

ラフィーナ「え？」

プロトバース「そう言う事」

そうゼロの言う通りバースは後藤、プロトバースは伊達が変身している姿だ

ラフィーナ「あれが、仮面ライダー・・・」

そして横に倒れてたデカマスターは起き上がり4人に襲いかかってくる

プロトバース「ま、話はそれぐらいにしといて、行くよ後藤ちゃん  
！！」

バース「はい、伊達さん！！」

そして2人のバースはデカマスターの前へと走っていった

ロックマンゼロ「オレ達も行くぞ!!」

ラフィーナ「ええ!!」

そして2人も2人のバースに続いて走った

プロトバース「よし、攻め込むぜ!!」

「バース」でも油断しないでくださいよ」

果たして4人はデカマスターを倒せるのか

part - 16 (後書き)

感想をお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9383z/>

---

ギャグありシリアスありバトルありのお気に入りキャラで逃走中

2012年1月14日03時47分発行